

平成22年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	歴史と伝統を受け継ぐとともに、先進的なビジネス教育を融合させ、地域社会をリードする人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりをとおして、意欲と適性のある生徒の募集に取り組む。 基礎・基本を重視したきめ細やかな「わかる授業」を推進し、学習意欲を高め、基礎学力の向上に取り組む。 基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的活動の活性化に取り組む。 生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(3月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	前期募集で募集人員を、100%確保できなかった。地域の中学生が大幅に減少する中、開かれた学校づくりを推進し、意欲と適性のある志願者を確保することが課題である。	開かれた学校づくりと生徒募集への取組	<ol style="list-style-type: none"> 毎学期中学校訪問を行い中学校との連絡を密にする。 学校案内の早い時期の作成と中学校行事を考慮した体験入学等を設定し学校の最新情報を提供する。 学校HPや県立学校ニュース、熊商ジャーナル等を活用し地域との連携を強化する。 中学PTAの見学受け入れと出前授業を実施する。 学校行事や公開講座を市報等を利用してPRする。 	<ol style="list-style-type: none"> 前期募集倍率が2学科とも1.1倍を超えたか 各種説明会への参加者が5%増加したか HPの更新回数と県ニュースの提供数及びジャーナルの定期的な発行ができたか 8校以上のPTA見学と出前授業の実施回数 学校行事や公開講座の来校者が増加したか 	<ol style="list-style-type: none"> 前期募集倍率、商業科1.21倍・情報処理科1.09倍であった。 体験入学・学校説明会等への参加者が10.5%増加した。 HPの更新、県ニュース96件掲載、熊商ジャーナルを7回発行した。 中学校PTAバス見学は6中学184名の参加と市内3中学で出前授業を実施した。 文化祭は948名来校、公開講座は21名の参加者で昨年より減少した。 	A	<p><課題>10月・12月の中学生進路希望調査から前期募集倍率まで商業科・情報処理科とも1.0倍を超える倍率を維持した。目的意識を明確に持った受検生を確保すること、来年度からの新入試にいち早く対応することが課題である。</p> <p><改善策>○来年度も中学校・中学生・保護者に対して積極的な情報提供を行う。○来年度からの新入試に対応した校内体制を早い時期に整える。</p>
2	わかる授業を推進し、学習意欲を高め基礎学力を向上させる必要がある。授業時間を確保するとともに、家庭学習を奨励し、組織的な指導体制を確立させることが課題である。	「わかる授業」の推進と基礎学力の向上	<ol style="list-style-type: none"> 分掌等との連絡調整を図り行事等を調整し授業時間を確保する。 各教科と連携し宿題等を課し家庭学習を奨励する。 検定対策等でクラスの枠を越えた指導をおこなう。 授業研究でわかる授業を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 行事等の調整等で授業時間数が5%増加したか 生徒アンケートで家庭学習をする生徒が70%以上か 各種検定資格取得者率が昨年度を上回ったか 授業研究を2回以上実施したか 	<ol style="list-style-type: none"> 行事等の調整で、授業時間数が2.1%増加した。 アンケートの結果、家庭学習する生徒は69%であった。 簿記2級で10.2%、情報処理2級で13.4%合格率が上昇し資格取得者は増加した。 校内で商業科2名が公開授業を実施した。 	A	<p><課題>補習授業等を実施し、各種検定の合格率は上昇したが、アンケートで試験前・試験中でも家で勉強しないと回答した生徒が10%いる。</p> <p><改善策>○家庭と連携し、学習の習慣を身につけさせる。○全商1級3種目以上を目標に掲げ資格取得を奨励する。</p>
3	基本的な生活習慣の乱れ、規範意識の低下がみられる。落ち着いた学校生活を送れるよう、さらに良い学習環境を整備することが課題である。	規範意識の向上と自主的活動の奨励と推進	<ol style="list-style-type: none"> 生徒と職員が毎学期、定期的に登校キャンペーン等を行う。 遅刻防止キャンペーンで基本的な生活習慣を確立させる。 挨拶キャンペーンと駐輪キャンペーンで規範意識を向上させる。 部活動の成績や成果を学校新聞等で賞賛と激励をする。 生徒の自主活動を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> キャンペーンを毎学期6回(各3日)実施できたか 遅刻者が5%減少したか 生徒アンケートで「学習環境が良くなった」と答える生徒が80%以上か 生徒アンケートで「積極的に部活動に参加している」生徒が70%以上か 	<ol style="list-style-type: none"> 毎学期、定期的に行い、成果をあげている。 遅刻者数は昨年度と比較し約20%増加した。 アンケートで81%の生徒が落ち着いた雰囲気の中で授業を受けていると回答している。 アンケートの結果48%の生徒が積極的に参加している。 	B	<p><課題>キャンペーン活動中や直後は成果が出るが、長続きしない傾向にある。基本的な生活習慣の乱れから、遅刻する生徒が増加している。</p> <p><改善策>○キャンペーンの実施期間を拡大する。○校門での指導人数を確保し遅刻者の減少や服装等の指導を行う。</p>
4	進路に対する意識が希薄な生徒が増加している。早い時期から継続的に進路情報を保護者、生徒に提供し進路意識を向上させ、勤労観・職業観を高めることが課題である。	目的意識の確立と進路希望の実現	<ol style="list-style-type: none"> 保護者・生徒に早めの情報提供を行い進路意識の向上を図る。 進路ガイダンスをさらに充実させ、学年ごとの目標を定め具体的な学習を実施し、勤労観・職業観を養う。 個人カレッジを利用し個に応じた進路指導を行う。 積極的な求人開拓を行うとともに高大連携を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者・生徒アンケートによる満足度が85%以上か 生徒アンケートによる満足度が85%以上か 進路情報管理システムの構築と指導室の整備状況 進路決定率は100%か 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者に対する進路説明会、生徒に対する分野別指導を行った結果、アンケートで91%の満足度を得た。 アンケートの結果、ガイダンス等の満足度は90%であった。 個人カレッジを作成し、詳細な情報を集約し進路指導に活用した。 進路全体の決定率は99%である。 	A	<p><課題>進学後の中退を防止する対策が必要である。将来男子の就職希望者の増加に対応するため新たな求人開拓が必要である。</p> <p><改善策>○進学者に対するキャリア教育を充実する。○就業エリアを拡大し、工業団地を中心とした新規開拓を実施する。</p>

実施日	平成23年 3月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>今年度の大きな課題であった生徒募集については、学校が一丸となった取り組みにより、大きな成果をあげることができた。この成果を来年度に生かすために、今後、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「出前授業」は、中学生に好評であり、生徒募集の上でも有効である。今後、拡充の方向で検討する。 新入試制度の実施に伴い、熊商の「求める生徒像」を積極的にPRする。 進学にも就職にも有利な熊商の進路実績を、中学校の教員や中学生の保護者にも届くようPRする。 	
<p>検定合格率が顕著に高まるなど、教育内容の充実が伺える。日々の授業を通じた更なる教育内容の充実に向け、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣づけに向け、具体的な取り組みを検討する。 「わかる授業」づくりを更に推進する。 	
<p>地域社会からも、「最近の熊商はよく頑張っている」「あいさつのできる生徒などいい生徒が多い」など高い評価を得られるようになった。今後、地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 遅刻を減らすために、保護者に理解と協力を求めるとともに、校内の指導体制を工夫する。 	
<p>厳しい社会情勢にも関わらず、高い進路決定率に加え、就職・進学ともに質的に高い進路実績を実現できた。今後の進路指導の充実に向け、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 求人開拓に向け、ハローワークとの連携を深めるとともに、より広範な地域を対象とした求人の取得をする。 さらに、保護者へも積極的に進路情報を提供する。 	